

社福明徳会 第 号

令和 8 年 月 日

熊本市健康福祉局
障がい者支援部 障がいサービス課 御中

社会福祉法人 明徳会
チャレンジめいとくの里
理事長 樺嶋 潤一郎

地域連携推進会議議事録の提出について

平素より大変お世話になっております。

このたび、当事業所において開催いたしました地域連携推進会議の議事録を作成いたしましたので、下記のとおり提出いたします。

記

- 1 事業所名 チャレンジめいとくの里
- 2 サービス種別 施設入所
- 3 開催日時 令和 8 年 8 月 4 日(火)13 時 30 分～14 時 30 分
- 4 開催場所 チャレンジめいとくの里 会議室
- 5 添付書類 地域連携推進会議議事録 一式

以上

【連絡先】

社会福祉法人 明徳会
チャレンジめいとくの里
TEL:096-215-9101

令和 8 年度 地域連携推進会議 議事録

事業所名	チャレンジめいとくの里		
開催日時	令和 8 年 8 月 4 日（火） 13:30～14:30		
開催場所	チャレンジめいとくの里 会議室（入所）		
出席者	構成員	人数	備考
	事業所職員	8	
	入所者	1	
	入所者ご家族	1	
	地域の関係者	1	
	福祉に知見を有する方	2	
	経営に知見を有する方	0	
	市町村担当職員	0	
議題	(1) 開会・法人代表挨拶 (2) 施設入所の取り組み報告 (3) 施設訪問の感想・意見交換 (4) 確認事項・今後の対応 (5) 閉会		
協議内容・意見等	司会進行：村上学 (1) 開会・法人代表挨拶 樺嶋潤一郎理事長より、災害発生後の状況下ではあるものの、年 2 回の貴重な会議機会であることから開催した旨が述べられた。あわせて、施設・地域双方の情報共有や意見聴取を通じ、今後の連携につなげたいとの挨拶があった。 (2) 施設入所の取り組み報告 ① 強度行動障害への取り組み ・入所利用者 50 名のうち 19 名が支援対象。行動そのものを抑えるのではなく、行動が起こる背景・原因を捉え、本人の困りごとを軽減する視点で支援を組み立てている。中核的人材を中心に週 1 回、支援の振り返りや支援方法の検討をチームで行っている。（井島入所サービス管理責任者） ② 近隣に関する事案 ・令和 8 年 6 月 9 日、利用者が送迎車の助手席から運転席側へ移動して降車し、近隣住民の敷地		

内に入る事案が発生した。追跡していた職員が引き留め、施設へ戻った後、近隣住民へ謝罪した。再発防止策として、乗車の順番や見守り方法等を見直している。(井島入所サービス管理責任者)

③ 地域交流

・ウェッキー作品展、どんどや等への参加を継続している。訪問販売では衣料品や菓子等を施設内で購入できる機会を設け、外出が難しい利用者にも買い物を楽しめる場となった。なお、当年度の地域夏祭りは災害の影響により中止となった。(井島入所サービス管理責任者)

④ 日常生活・情報共有

・一日外出等について本人の希望を確認しながら計画している。記録の電子化を進め、写真等を含む情報を職員間で共有しており、今後は家族への情報共有も視野に入れている。(井島入所サービス管理責任者)

⑤ 経営状況

・法人ホームページで決算情報等を公開している。現時点では黒字を維持しているが、今後も厳しい経営環境を見据え、継続して経営管理に取り組む。(樺嶋潤一郎理事長)

⑥ BCP・防災

・令和7年12月に地域住民2名の参加を得て、施設見学、防災ワークショップ、非常食試食等を実施した。今後も地域との防災活動を継続する。(井島入所サービス管理責任者)

⑦ 権利擁護・事故防止

・虐待、事故、ヒヤリハットを積極的に報告し、大きな事故につながらないよう検討している。無断外出等については、個別の原因分析と環境面の対策を行う。(井島入所サービス管理責任者)

⑧ 利用者自治会

・会長・副会長を中心に、行事予定の確認、外出希望の取りまとめ、意見交換等を実施している。熊本市北区ブロックの「利用者の会」に代表者1名が参加し、年3回、他施設利用者との交流・意見交換を行っている。(井島入所サービス管理責任者)

⑨ 今後の課題

・地域行事への参加や会議の継続を通して「平時から顔の見える関係」をつくり、地域防災を知り、施設として地域貢献の役割を検討していく。(井島入所サービス管理責任者)

(3) 施設訪問の感想・意見交換

① DX・データ管理について

・DXの進展に伴いデータ量が増加することから、バックアップ方法やクラウド化の状況について質問があり、セキュリティ対策の必要性について意見が出された。(井手美臣氏)

・施設側から、現在は施設内サーバーとバックアップ機器で常時バックアップを行っており、クラウド化についても費用面を含め検討している。また、ウイルス対策等も強化していく必要があるとの説明があった。(樺嶋潤一郎理事長)

② 地域防災について

・川上校区には北部中学校、川上小学校、北部まちづくりセンターの3か所の避難所があり、それぞれ運営委員会があることが共有された。施設も防災訓練等に参加し、地域と連携していくことが提案された。(井手美臣氏)

③ 福祉避難所としての役割

・明徳会は福祉避難所として指定されており、一般避難所での生活が難しい障がいのある方等を受け入れる役割がある。今回の災害でも行政から問い合わせがあり、地域に対象となる方がいれば協力していきたいとの説明があった。(樺嶋潤一郎理事長)

④ 今回の災害における施設の状況

・施設自体に大きな建物被害はなかったが、一時的な濁り水やガス設備の安全装置作動があった。ガスについては業者対応により当日中に復旧し、翌朝も通常どおり食事提供ができた。(樺嶋潤一郎理事長)

⑤ 県南の障害福祉施設の状況と備蓄

・県南の障害福祉施設では、水道・建物被害、車中泊、物資不足等が発生したこと、施設間の連絡網を活用して必要物資の把握・搬送等の支援が行われていることが共有された。また、発災直後は連絡が取れない状況も想定し、最低3日間程度の備蓄が重要との意見があった。(石井康就施設長)

⑥ 災害時の家族への情報発信

・家族代表から、災害時に利用者がどうなるのか心配であり、施設で安全に過ごせていることが分かると安心できるとの意見があった。(堅島誠一氏)

・施設側から、災害時に各家庭へ一件ずつ連絡することは難しいため、家族にもLINE登録をしてもらい、一斉に安否情報を送れる仕組みがあると安心につながるとの提案があった。(石井康就施設長)

・法人のInstagramで利用者の無事や食事の様子を発信したところ、安心したとの家族の反応があったことから、LINE等の一斉連絡やSNSを含めた情報発信手段を整える必要があるとの意見が出た。(村上学サービス管理責任者)

⑦ 平時からの地域とのつながり

・災害時は地域住民も施設も同じ被災者となるため、平時から地域とつながり、地域の要望も聞きながら、利用者だけでなく地域の方々も意識した備蓄や役割を考えていくことが重要との意見があった。(長濱朋二氏)

・日頃から地域とともに暮らし、困った時に地域へ「助けてください」と言える関係をつくることが大切であるとの意見があった。(村上泰幸氏)

⑧ 「ともにいきる委員会」の取り組み

・法人では昨年度から「ともにいきる委員会」を立ち上げ、コロナ禍で希薄になった地域とのつながりを改めて強化している。今後、地域の避難所運営委員会や防災訓練等への参加を進め、明徳会が地域の防災拠点の一つとなることを目指したいとの説明があった。(村上学サービス管理

責任者)

(4) 確認事項・今後の対応

① 地域防災との連携

・川上校区の避難所運営委員会、防災訓練等への参加・連携方法を具体化する。

主な発言・提案者：井手美臣氏／村上学サービス管理責任者

② 福祉避難所としての役割

・災害時の受け入れ手順、地域・行政との連絡方法を継続して確認する。

主な発言・提案者：樺嶋潤一郎理事長

③ 災害時の情報発信

・利用者家族への一斉連絡手段として LINE 等の活用を検討し、SNS による情報発信も含めて連絡体制を整える。

主な発言・提案者：堅島誠一氏／石井康就施設長／村上学サービス管理責任者

④ 備蓄・BCP

・最低 3 日間を念頭に、水・食料・燃料等の備蓄、設備復旧、連絡手段を再点検する。

主な発言・提案者：石井康就施設長

⑤ 事故防止

・送迎時の見守り、乗車順序等を見直し、無断外出等の再発防止を継続する。

主な発言・提案者：井島愛子入所サービス管理責任者

⑥ データ管理

・DX 推進に伴うデータ増加を踏まえ、バックアップ、クラウド化、セキュリティ対策を検討する。

主な発言・提案者：井手美臣氏／樺嶋潤一郎理事長

⑦ 地域との関係づくり

・平時から顔の見える関係づくりを進め、地域行事・会議・防災活動への相互参加を継続する。

主な発言・提案者：井島愛子入所サービス管理責任者／井手美臣氏／長濱朋二氏／村上泰幸氏／村上学サービス管理責任者

(5) 閉会

意見交換を終了し、樺嶋尚志常務理事より謝辞が述べられ、閉会した。

(その他)

次回→2月9日予定